

平成22年度 コミュニティパーク事業対象箇所の審査内容

- 応募状況 応募自治会は、鹿ノ台北1丁目自治会からの1地区の応募があった。
鹿ノ台北1丁目には鹿ノ台いちょう公園（以下、当該公園という）があり、毎月の清掃を欠かさず適切な管理に努めているが、利用率が低くあまり人が立ち寄らない公園になっている。そのため、このコミュニティパーク事業を契機として地域のコミュニティを醸成し、鹿ノ台いちょう公園をそのきっかけづくりの場にしたい、という応募内容である。
- 条件審査 街区公園及び設置されて10年以上経過している公園を対象としており、当該公園は街区公園であり設置されて30年以上経過しているため、当事業の審査対象とする。
- 審査内容 1地区の申請であるため、当該公園が本事業に妥当かどうかを審査。

【緑の市民委員会審査】

（審査に関する意見）

- ・鹿ノ台には11の街区公園があり、かなり整備されている。その上に公費を入れて整備する必要はない。鹿ノ台北1丁目だけ整備すると鹿ノ台11公園の整合性が崩れてしまう。
- ・北1丁目が手を加えて一つの街区公園の理想郷みたいなものをここで作り、他の公園のモデルケースとして将来に一石を投じるということであれば、それはいいことだ。しかし、他の鹿ノ台地域との関係が見えてこないで、疑問に思っている。
- ・この事業はワークショップに大勢の方々の参加を求めている。今のところは役員のアイデアで整備に対する意見が上がっているが、ワークショップをすることによって別の意見が出てくるかもしれない。最終的にその答えが、公園のデザインを変えることではなく、このままでも使い方を工夫すれば利用率が上がるのではないかとということであれば、それはそれでいいのではないかと。簡単な剪定とベンチの入替えだけでも、ワークショップの効果で利用率が上がるなら、それでいいのではないかと。
- ・6回も話し合いを経た上での応募であり、住民が「やりたい」「やらなければならない」と考えていることを酌んであげたい。公園を通じて、人間の基礎のつながりをつくろうと思われているのではないかと考える。
- ・ワークショップ参加予定に若い世代の住民が見受けられないので、ワークショップそのもので三世代交流が進むような参加者の募り方にする。
- ・鹿ノ台地域として他の公園との一体化ということもあるため、ここの公園だけではなく、鹿ノ台全体の中での位置づけ及びデザインを考慮しながら、ワークショップの中で考えていただくという条件をつけてはどうか。

【生駒市審査】

地域連携について

- ・自治会だけでなく、北1丁目自主パトロール隊、老人会、民生児童委員、他ボランティア団体等が参加されるため地域の連携は高い。
- ・応募に際し、当事業申請のための打合せを計6回開催し、住民にも事前アンケートを行われているなど、事前に地域の合意形成を図られている点でも地域の連携は高いと思われる。

公園の課題解決について

- ・公園利用に関しては、利用率の低下及び急増中の高齢者への対応など問題点をもち、これらの問題点を本事業を通じて解消したいという意図が伺われる。

公園の育成について

- ・普段から毎月の清掃活動など、多くの人手と費用をかけて管理をしており、「地域の公園は自分たちで管理する」という意図が伺える。

- ・公園を地域の、特に三世代の交流を促進するきっかけづくりの場所と捕らえている点、住民が積極的に公園に関わっていただける体制をつくりたいという点、整備後はボランティア団体を立ち上げ維持管理活動の主体となるようにする点など、積極的な育成への意図が伺える。

現地調査

- ・全体的に草も刈られ、よく管理されている公園である。
- ・外周生垣に補植の必要な部分あり。
- ・公園中心部と築山部分とのアクセスが不良。
- ・ブランコ側にある木製ベンチ付近の水はけが悪い。
- ・藤棚下及びブランコ側のベンチが老朽化。
- ・「遊具等の安全基準」をクリアしていない遊具がある。
- ・敷地内に防火水槽地あり。

【緑の市民委員会と生駒市による審査結果】

平成22年度のコミュニティパーク事業は、鹿ノ台北1丁目自治会の鹿ノ台いちょう公園を事業対象公園とする。ただし、次の条件を附して採択とする。

条件：鹿ノ台地域として他の10街区公園とのデザインのバランスを考慮し、鹿ノ台全体としての意見も参考にしつつ計画案を立案すること。